

◆ 八王子都税事務所長賞 ◆

「税金で得られる健康」

多摩市立聖ヶ丘中学校 3年 平 翔太

僕は去年の冬、インフルエンザにかかってしまいました。学校も休んで、数日間家でじっとしているしかありませんでした。そのとき、健康の大切さだけでなく、税金の重要性についても考えさせられる出来事がありました。

インフルエンザにかかると、病院に行って薬をもらったり、診察を受けたりします。お医者さんや看護師さんは、一生懸命に病気を治してくれるので、本当に感謝しています。しかし、病院での治療には多額のお金がかかります。もしそのお金が自分一人だけで支払わなければならなかったら、病院に行くことさえできなくなってしまう人が、たくさんでくると思います。

ここで大切になってくるものが、税金です。税金は、僕たちが生活する時や、大人が働いた時に得たお金の一部を、国や地方に納めることです。

僕がインフルエンザにかかったとき、保険証を持っていたので、治療費の一部が保険でカバーされました。この保険料という仕組みも、実は税金を使って運営されている制度です。税金があるおかげで、みんなが病気になったときに安心して治療を受けることができます。

特に、インフルエンザのような感染症が流行すると、その分患者さんも増えます。政府は、普段から税金を集めて、それを使ってワクチンの開発や配布、感染症対策のための施設整備などを行う必要があります。

また、病院以外にも税金で運営されている公共施設がたくさんあります。図書館や公園、スポーツ施設など、無料で使える施設があるおかげで、友達と遊んだり、勉強したりすることができます。これらもすべて、税金がなければ成り立たない大切なものです。だから、みんなが自分の分の税金を払うことで、社会全体が助け合っているのだと感じました。

インフルエンザを通じて、僕は「税」というものがとても大切であることを学びました。もちろん、税金を払うのは少し大変なことかもしれませんが、それによって僕たちの生活が豊かになるのなら、頑張って納めることも大切だと思います。